

「道路の歴史と役割、防災・減災に係る小・中学生向け副読本の作成」

国土交通省 関東地方整備局 道路部 道路計画第一課

はじめに

関東地方整備局は、道路の歴史や役割を学んでもらうために中学生向けの副読本「関東の道路」を作成すると共に、「道路の防災・減災機能」や「災害時の迅速な避難や救援の観点から自助・共助・公助の重要性」を学んでもらうために小学校高学年向けの副読本「大地震に備える」を作成した。また、本年8月から9月にかけて、副読本「関東の道路」を管内1都8県の公立中学校の中学1年生へ、副読本「大地震に備える」を管内1都4県（東京都、茨城県、埼玉県、千葉県、神奈川県）の公立小学校の小学6年生へ配布を行った。これらの副読本は広く一般の方も活用できるよう、平成28年8月にホームページで公開しており、12月末の時点で約1,400件アクセスされている。

本稿では、これらの副読本の作成までに至る経緯や、内容等について紹介する。

副読本「関東の道路」の作成

平成27年は、大正14年に国道15号（東京都品川区北品川～神奈川県横浜市神奈川区青木町）において、日本初の道路舗装が施工されてから90年の節目であった。

道路の役割や整備効果に関する情報について、これまで建設中や開通時、開通後に各メディアやパネル展、シンポジウム等で積極的に広く一般へ発信していたが、道路の歴史に触れた広報はあまり行っていなかった。

そこで関東地方整備局では、身近にある道路が地域の発展にどのような関わりを持ってきたかを生徒に知ってもらい、今後道路がどのような役割を果たす必要があるかを考えてもらうと共に、さらにはその家族の方々も道路への認識を深めてもらえるよう、中学生向けの副読本「関東の道路」を平成27年に作成した。（資料－1）



目次	
1 序	3
2 道路の歴史	5
3 道路の役割	7
4 道路の未来	9
5 道路の役割と歴史	11
6 道路の役割と未来	13
7 道路の役割と歴史	15
8 道路の役割と未来	17
9 道路の役割と歴史	19
10 道路の役割と未来	21
11 道路の役割と歴史	23
12 道路の役割と未来	25
13 道路の役割と歴史	27
14 道路の役割と未来	29
15 道路の役割と歴史	31
16 道路の役割と未来	33
17 道路の役割と歴史	35
18 道路の役割と未来	37
19 道路の役割と歴史	39
20 道路の役割と未来	41
21 道路の役割と歴史	43
22 道路の役割と未来	45

資料－1 「関東の道路」表紙、目次

編集にあたっては、学識経験者、メディア関係者、及び教育関係者等を交えた編集委員会を設置し、全4回の編集委員会における各委員の意見を参考に取りまとめを行った。また、編集を進めるうえでの基礎情報とするため、五街道（東海道、日光街道、奥州街道、中山道、甲州街道）をはじめとした、管内における主要な国道の歴史と地域の成り立ちなどの資料や写真等を収集するとともに、道路の各施策についても資料を収集した。

副読本の構成は、全5章と資料編から成り、第1章は「道路の歴史」をテーマとして弥生時代から昭和初期までの道の変遷について、第2章は「自動車と道路」をテーマとして交通手段の発達とそれに応じた道路整備について、第3章は「道路の現状と役割」をテーマとして現在の道路の役割と課題について、第4章は「進化する道路」をテーマとして進化していく道路の現状と今後の課題について、それぞれまとめており、道路と地域の成り立ちや道路の役割について順を追って学べる内容となっている。また、資料編は各章の補完として、道路の整備効果やTEC－FORCE等の災害時における関東地方整備局の支援について解説している。

レイアウトは、興味を持ちやすい内容となるよう、図や写真・イラストを多く配置し、学校の教科書では扱わないエピソード等を掲載することで「副読本」としての特色を出すことに努めた。（資料－2）

エピソードの例として、明治4年に来日した英国人女性の旅行作家イザベラ・

バードが東北地方を旅した際、当時の道路の状態の悪さにひどく驚き、政府は軍艦や贅沢品を買うよりも、国内の輸送道路を整備して国を富ました方が日本にとってずっと良いことであろう、などと記した「日本奥地紀行」の一部を紹介している。また、その他にも、世界初のガソリン車や、世界で初めて開催された自動車レースなど、興味を引くトピックスを多数掲載している。

また、教育現場で副読本を活用していただくため、副読本の各ページが学習指導要領とどのように対応しているかを分かりやすく整理した教員向けの資料も作成し、副読本と併せて配布した。

副読本「大地震に備える」の作成

平成25年12月に中央防災会議（首都直下地震対策検討ワーキンググループ）が公表した首都直下地震の被害想定では、最悪時、死者2万3千人、全壊・焼失棟数61万棟、帰宅困難者800万人とされている。また、首都圏が抱える災害リスクはこれにとどまらず、茨城沖地震や南海トラフ巨大地震の発生も懸念されている。

災害時の避難行動や救援活動に欠かせない道路を普段から熟知しておくことは重要であり、防災教育は



資料－2 「関東の道路」レイアウト

被災時のリスク軽減につながると考えられる。

そこで関東地方整備局は、学識経験者、メディア関係者、及び教育関係者に協力いただき、「道路の防災・減災機能」や「災害時の迅速な避難や救援の観点から自助・共助・公助の重要性」についてとりまとめ、教育現場における防災教育を支援するため、小学校高学年向けの副読本「大地震に備える」を平成 25 年度に作成した。(資料-3)

編集にあたっては、学識経

験者、メディア関係者、及び教育関係者等を交えた編集委員会を設置し、全 5 回の編集委員会における各委員の意見を参考に取りまとめを行った。

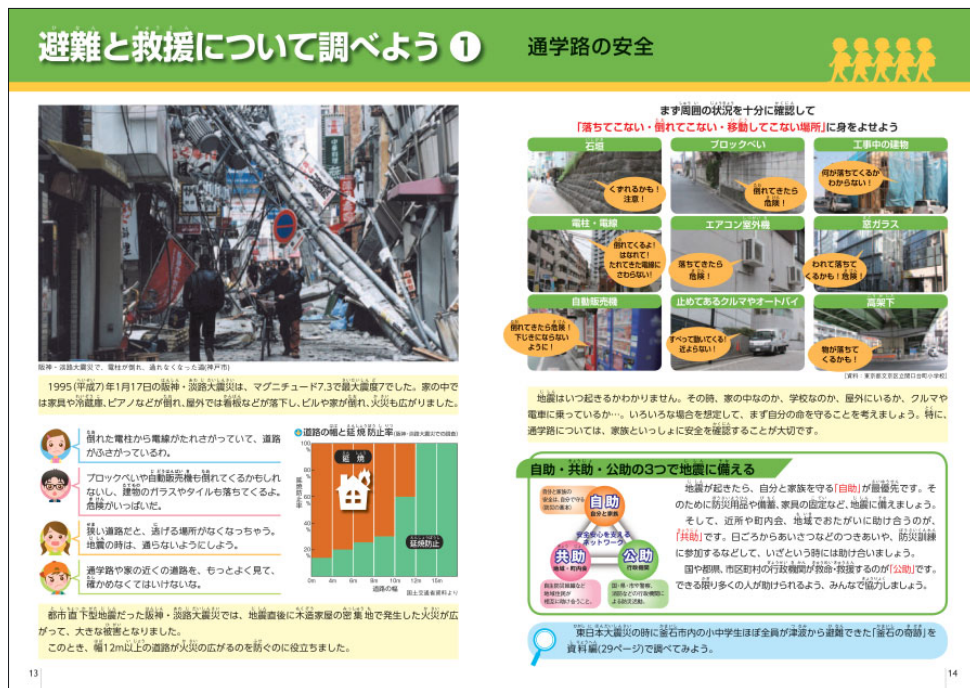
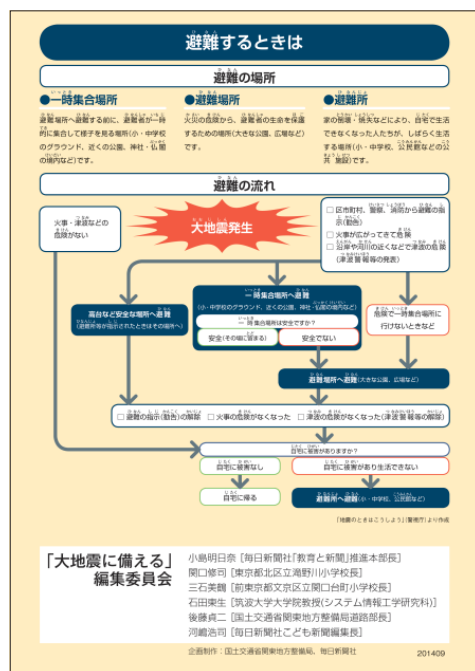
副読本の構成は、全 5 章と資料編から成り、第 1 章は日本の国土の特徴について、第 2 章は地震が起きる仕組みについて、第 3 章は首都直下型地震が発生した際の影響や被害について、第 4 章は安全な避難方法と命の道の役割について、第 5 章は緊急輸送道路や救援ネットワークについて、それぞれまとめている。また、資料編は各章の参考となる資料として、相模トラフや南海トラフによる地震の被害想定や、首都直下地震で想定される被災と復旧の流れなどについてわかりやすく解説している。

レイアウトは、副読本「関東の道路」と同じく図や写真・イラストを多く配置している。内容については、通学路にある電柱や塀など、地震により倒れて危険を及ぼす恐れがあるものの具体例を紹介など、身近な道路の防災について考えてもらえるような工夫をしている。また、東日本大震災の際に釜石市内の学校に通う小中学生 2921 人が津波から無事に避難できた「釜石の奇跡」について紹介しており、避難時の重要なポイントも学ぶことができる。(資料-4)

副読本を総合学習などの防災に関する授業で有効活用していただくためのガイドブックを作成すべく、平成 26 年度に教育関係者と意見交換を行ったほか、平成 27 年度には学識経験者、メディア関係者、及び



資料-3 「大地震に備える」表紙



資料-4 「大地震に備える」レイアウト

教育関係者等を交えた検討委員会を設置し、今後どのような啓発活動を行っていくべきか検討を進めた。また、啓発活動のあり方についてより具体化を図るため、防災教育をテーマに教育関係者向けのワークショップを開催した。ワークショップでは、実際に東京都北区立滝野川小学校において「滝野川小のまわりを歩いて防災マップをつくろう」を実施し、副読本「大地震に備える」を使用した講義の後、フィールドワークと防災マップの作成を行った。ワークショップにより得られた教育関係者の意見を踏まえ、検討委員会において「防災教育スタートガイド」をとりまとめた。（資料－５）

「防災教育スタートガイド」は、副読本「大地震に備える」と併せ、管内１都４県の公立小学校へ配布した。



資料－５ 「防災教育スタートガイド」

おわりに

今回作成した副読本「関東の道路」により道路の役割について、副読本「大地震に備える」により「道路の防災・減災機能」や「災害時の迅速な避難や救援の観点から自助・共助・公助の重要性」について学んでもらい、身近にある道路に興味・関心を持つきっかけとしていただきたい。

また、２つの副読本及びスタートガイドを編集、作成するにあたり、ご協力いただいた各委員の方に厚く御礼させていただきます。

副読本等の編集委員（所属、役職は委員会時点のもの）

「関東の道路」

屋 井 鉄 雄	東京工業大学大学院教授
堀 井 宏 悦	読売新聞東京本社調査研究本部主任研究員
早 坂 礼 子	産経新聞・産経編集センター編集委員
野 口 潔 人	世田谷区立尾山台中学校長
岡 四 朗	豊島区立教育センター所属

「大地震に備える」

小 島 明日奈	毎日新聞社「教育と新聞」推進本部長
関 口 修 司	東京都北区立滝野川小学校長
三 石 美 鶴	元東京都文京区立関口台町小学校長
石 田 東 生	筑波大学大学院教授
河 嶋 浩 司	毎日新聞社こども新聞編集長

「防災教育スタートガイド」

寺 本 潔	玉川大学教授
関 口 修 司	東京都北区立滝野川小学校長
三 石 美 鶴	帝京科学大学教職特命教授 元文京区立関口台町小学校長
小 島 明日奈	毎日新聞社「教育と新聞」推進本部長